令和 4 年 11 月 26 日(土)

令和 4 年度　郷土の歴史探検ツアー 浅利地区

島崎

1,　行事名「標題通り」

　　秋の浅利と浅利に伝わる伝説の地を巡る。

2,　日時場所等

日時　　：令和 4 年 11 月 26 日（土）9：00 大月駅集合～15：10 大月駅解散

参加人数：14 名　郷土資料館・社会教育課、浅利を知る会（区長始め多数）

3,　コース

① 大月駅　②浅利跨線橋　③浅利入口　④興亜航空防空壕跡　⑤浅利道・浅利橋

⑥與市地蔵　⑦観音堂　⑧神田神社　⑨賑岡公民館浅利分館(トイレ)　⑩道祖神　⑪御座松跡・千本松

⑫中樹山浄照寺(昼食)　⑬宮澤神社　⑭強瀬が瀧　⑮不動沢　⑯二十三夜　⑰馬頭観音

⑱道祖神　⑲浅利マルチベース　⑳甲州街道裏往還　㉑鬼窪　⑳大月駅

4，内容

① 大月駅

大月駅集合 8：45　雨模様のため数名不参加

体温測定結果と体長確認シート提出

集合写真を撮り浅利のプログに載せること了承確認

写真 1　大月駅集合

大月駅の特徴説明

山小屋をイメージした造り、屋根に方位計が付いている。上段が富士山方向。

ロータリの時計台は三方向に月の表示が違う。

写真 2 大月駅の特徴

② 浅利跨線橋

昔（郷土資料館館長が子供の頃）は踏切でした。

跨線橋上での説明

富士山麓電気鉄道についての説明。

富士馬車鉄道で大月市内は現在と異なる経路で通っていた。馬車なので小回りが利いたようです。1928 年？より現路線での電気鉄道となる。

中央本線は、花咲方面は河岸段丘で低くなっている。大月側を掘り、花咲側を盛って線路を通した。

写真 3　浅利跨線橋

③ 浅利入口

浅利天野区長、浅利を知る会あいさつ

浅利説明：桂川手前は大月三丁目

浅利地区は三地区に分かれている　下組・上平組・入組

写真 4　浅利道

写真 5　浅利全容

④ 興亜航空防空壕跡

写真 4 の右側壁は 6000 年前に富士山の噴火で出来た柱状列石の壁で、その当時の川で出来た洞窟がある。現在はかなり高い位置で、コンクリートで埋められた。

第二次大戦中に、写真 4 の高台にベニア製張りぼての飛行機を造った興亜航空があった。動員されていた都留中学校の学生が、敵機飛来警報でこの洞窟に逃げたが 9 名が生き埋めとなり亡くなった。＊張りぼての飛行機は父も参加していた話は聞いたことがあります。

写真 6　興亜航空防空壕跡

⑤ 浅利道・浅利橋

- 浅利道（写真 4）は大月町にあるが以前は、2 回/年浅利で清掃業務をしていた。
- 浅利橋昭和 8 年架設
- 浅利道を造る時には土地を提供したが、市道時代は固定資産税を払っていた。県道に格上げになったときに土地を無償支給して固定資産税を払わなく済むようになった。
- 旧道：甲州街道裏往還（⑳参照）強瀬側は崩れて通行不可

写真 7　旧道

⑥ 與市像

- 與市像側がある地域が、従来家の多かった地域。現在の集落地域は田んぼで、家は 3 軒しか無かった。中央道建設にて引越ししたとのこと。
- 甲斐源氏が中央市の浅利に住んで浅利氏を名乗った。浅利與市が移り住んでこの地が浅利となった。
- 写真 8 の説明資料にて壇ノ浦での遠矢の逸話の説明を受けた。
- 與市地蔵については壇ノ浦の功績により、鎌倉より送られてきたとか、背負ってきたとかの話があり、輸送のため七段重ねの構造だった。
- もともとは右手奥にあったが、記録では二回ほど流されている。安政時に流されて見つかった残骸は現與市像横に置いてある。現在の像は明治 29 年に再建されたものです。
- 戦国時代の子孫で武田家の家臣浅利信種は、三増峠の戦いで活躍したが鉄砲で撃たれて亡くなった。愛川町より骨が出てきた際に何カ所かに声をかけたようで、浅利では分骨して頂き與市像横に納骨した。

写真 8　浅利與市像

⑦ 観音堂

元暦二年（1185 年）の源平合戦最後の壇ノ浦の戦いで功績のあった浅利與市と妻板額御前との第一子市若丸を、鎌倉幕府二代将軍頼家の子八幡の身代わりとして、比企能員の変で失った悲しみを癒すため、観音堂を建立したのが起源と伝わっている。（飯島家（長く管理）昭和 12 年の記録）

＊ 【配布資料】別説『郡志』 「曾我兄弟の仇討ち」で曾我兄弟に討たれた工藤祐経の残党を討滅した浅利式部が「元久元年（1204 年）に三月十一日此地に一祠を営み浅利村と改めたり」

三増峠で戦死した浅利信種の嫡子浅利昌種が本田忠勝の家来となってこの地を離れてからは完全に村持ちの観音堂となった。都留郡三十三番札所の十五番札所です。明治以降一時期廃堂の時期もありましたが、昭和十三年に再建し、現在の観音堂は昭和六十年に建て替えたものです。

写真 9　観音堂（外観は 11/19 撮影）

⑧ 神田神社

土砂崩れにより現在の位置に再建した。元の位置には白樫の大木があるのでかなり古いものと思われる。本殿屋根左右に鬼面あり。

＊ 【配布資料】『国志』に浅利の産神とある「御嶽権現」のいわれ

- 「鎮守御嶽権現、神田大明神之履歴」（大正 4 年社掌・氏子総代ら記）。承久元年（1219 年）に浅利式部により建立され、南北朝時代応永 3 年（1396 年）に神田明神を勧請・合祀したとあり、その後、3 回にわたる土砂崩落により明治 25 年（1894 年）に現在地に遷座・再建されたと書かれている。＊この起源が口承であることの但し書きあり。
- 御嶽権現から、『郡志』に浅利の村社として記載されている「神田明神」への社名変更？については、明治 25 年の再建の際に行われたと考えられます。
- 神田神社の祭神は、大己貴命（おおなむちのみこと）、少彦名命（すくなひこなのみこと）、素盞嗚命（すさのおのみこ）の 3 神です。また、御嶽権現は神道では大己貴命、少彦名命と習合します。両社とも祭神が一致することから合祀、社名変更も容易におこなわれたのではないかと推測されます。

写真 10　神田神社

⑨ 賑岡公民館浅利分館　＊映像による説明。飲み物を戴きました。トイレ

・ ホームページ「大月 浅利の里」と「浅利を知る会」との紹介

・ 世界的陶芸家「徳丸鏡子さん」の紹介。母の実家の浅利で陶芸活動をされている。

⑩ 道祖神

村内堺。外部から侵入する邪霊、悪鬼、疫神などを遮ったり、跳ね返そうとする民族神。

近くの家の屋号「山口」現在は引っ越して、「和出口」（陶芸家宅）となっている。

写真 11　道祖神　横に馬頭観音

⑪ 御座松跡・千本松

【御座松】枝の分岐部に人が座れるほどの広さがあるからとも、この松の樹形がどっしりと座っているように見えるからともいわれています。

道路の拡張工事と松くい虫で枯れてしまった。

＊ 御座を敷いて天狗が酒を飲んでいた。又は天狗が座っていたとの言い伝えがある。

写真 12　御座松

【千本松】ホウキを逆さにしたような形の松

枯れないように薬剤を注入したりして松くい虫などから守っている。一時より元気になっている。

写真 12　千本松

⑫ 中樹山浄照寺　（昼食）

法然上人と親鸞上人は流罪となり、親鸞上人は越後に流罪となった。流罪が許されて関東で念仏の教えを広め、麻布善福寺の了海上人（（関東）六老僧のひとり）は一山を浄土真宗に改宗した。（1275 年）了海上人によって大月市の中村に建立した草庵が浄照寺の始まり。

初代の住職が、亀が好きで夫婦亀石を置いた。300 年前に 14 世住職教応上人が寺を中村より現在の遅能戸に移した。この時雌石が置き去りになっていたが 60 余年前に中村より嫁入りが行われた。亀石は触ると長生きすると言われている。

＊ 稚児落としで落とされたとされた万生丸は生きて、その後祀った。

＊ 鬼伝説有り、宮澤神社参照。

＊ 3 年後 750 年祭には庭を整備する予定です。

＊ お菓子を戴きました。

写真 13　本堂（阿弥陀如来像、上人肖像画）＊欄間左甚五郎の作と言われている。

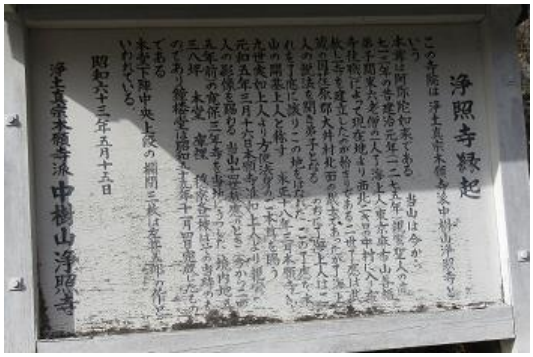

写真 14　浄照寺門前

写真 15　浄照寺境内（夫婦亀石他）

⑬ 宮澤神社　1728 年建立

【配布資料】際神は木花咲耶姫命（このはなさくやひめのみこと）古くから子安神社・子育明神と崇められ、市外からも安産、子宝を祈願するたくさんの人がお参りに訪れています。鳥居には「子安宮澤神社」の扁額が掲げられています。傍らの説明板によると、妊婦がこの神社にお参りして、この神木の杉皮を剥いで、晒布に包み腹に巻けば、安産疑いなしと信じられています。

・ 妊婦に帯び・赤ちゃんを覆う肌着？を貸出している。4 月 15 日/10 月 15 日の 2 回/年お祭り時に返却して頂いている。昔はお祭りには出店が出店して賑やかでした。
西奥山は五つの地域：金山、中村（2 地区）、遅能戸、宮の沢？　以前は 120 軒あったが現在は 63 軒、危機感がある。絵馬やお守りなど作り参拝者を増やし、子供を増やすように努力している。

・ お宮の右横の杉の大木。手前を夫婦杉、奥を親子杉といっている。親子杉の子供杉が枯れて倒れてたことから切ってしまった。

・ 鎧・刀（元近刀）があったが盗まれた。

宮澤神社

夫婦杉説明板

夫婦杉（手前側）

親子杉（奥側、枯れ切る）

写真 16　子安宮澤神社

【鬼伝説】『大菩薩連嶺』（岩科小一郎 1959）浅利式部太郎義知の鬼退治の後日譚として、めぐりめぐって鬼の親分の首が祀られることになった経緯と、子宝・安産の起こりについて書かれています。

浅利式部太郎が鬼窪山(㉑参照)の鬼を弓にて追い立て、鬼は岩殿山に逃げた。それを捕まえて岩殿で首を切ったところユルギ（七保町林）に首が飛んでいった。子分が首を持って葛籠に入れて逃げた。日影入で偽って一泊し、翌日峠を越えたが重いので葛籠を捨てたのがトズラ峠。子分は現在の宮澤神社にて「ありがたい首」であることを言って祠を立てて祀ったのが神社の始まり。首を浄照寺に預け、神社には張りぼてを置いてある。

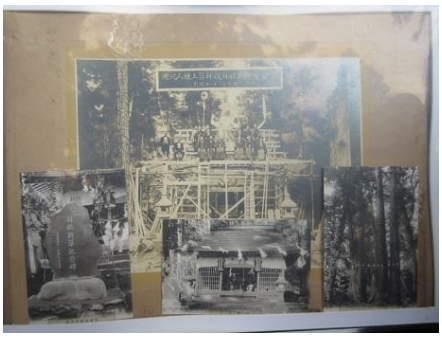

写真 17　昭和 8 年 10 月 21 日棟上げ式

写真 18　鬼首張りぼて

⑭ 強瀬が瀧

【配布資料】

『国志』【山川部】の浅利川の説明文中に、「（中村川と浅利川の合流点）より八町許にして破岩と云瀑布あり、高壹丈餘こあせが瀧と云。此瀧二段あり、一段は壹丈五尺許なり」との記述。

両岸は切り立った崖になっているので川に近寄ることができず、橋の上から滝口をみることしかできません。

＊ホームページ「大月 浅利の里」に写真が掲載されています。

写真 19　強瀬が瀧

⑮ 不動沢・橋

沢の上流の不動尊があったが流された。お不動は無辺寺にあるが誰も管理していない。教育委員会に無辺寺と浅利から相談を受けている。所有者・経緯を調査中

不動橋（昭和 38 年 1 月 28 日施工）は現在交通止めになっていた。

写真 20　不動沢・不動橋

⑯ 二十三夜　：女性のお祭り　明治三十三年の刻印　＊浅利三地区にそれぞれある。

⑰ 馬頭観音　：昔は動力として馬を使っていた。浅利地区では 30 弱の馬頭観音があり、中央道付近は場所をまとめた。

写真 21　二十三夜

写真 22　馬頭観音

⑱ 道祖神　村内堺＊⑩参照

中央道が出来るまでは全面ほぼ田んぼ地帯。民家は三軒のみ。

写真 23　道祖神

⑲ 浅利マルチベース

昭和 62 年頃国中から来られる教員ように、教員住宅として建設された。18 年前までは入居者がおられたが、以降空き家となっていた。

今年 2 月 9 日マルチベースとしてオープンした。結構使われているそうです。2 階は改装が済んでいない。ワーケーションに使用。宿泊は出来ない。短期使用は出来ないようです。

竹ドームのところに東屋計画していたが予算が無いため、地域住民で竹ドームを設置した。宅地のためビニールは被せられないとのこと。井戸端会議や集まりなどに使われているそうです。

写真 24　浅利マルチベース・竹ドーム（写真左端）

戦後は薪に使われたので山に木が無かったそうです。

写真 25　昔の浅利雪景色（中村先生の写真）

⑳ 甲州街道裏往還　浅利橋側＊⑩参照

浅利橋側甲州街道裏往還。浅利マルチベース側より浅利橋に向う道。

上がった処は（野菜の無人販売所付近)田んぼ用に開梱したが水を上げることが出来ず畑となっている。さらに浅利橋の下を通って、鬼窪山の川沿いに道が続くが、崩れて通れない。

写真 26　甲州街道裏往還

㉑ 鬼窪山（姥子さん）

鬼が住んでいた山で、浅利式部が矢を射立てたとの伝説がある。(⑬へと続く）

枯れ葉が無くなると、鬼の顔をした岩が見える。

写真 27　鬼窪山(浅利橋より）

㉒ 大月駅

アンケートに記載して解散した。

以上